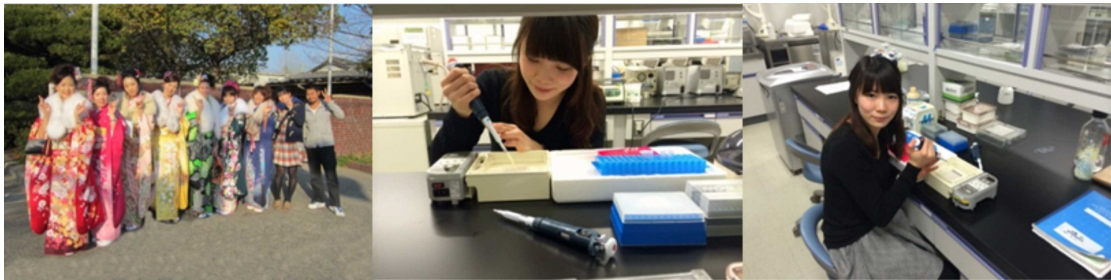


(東京大学大学院で遺伝子組換えにより医薬品、化粧品への応用を目指す)

近藤まり コスモサイエンスコース一期生

2010年卒業後、法政大学生命科学部に進学。2015年4月より東京大学大学院 修士課程に進学予定。

中学生の頃の夢は、陸上競技でインターハイに出場することだったので、その夢が叶えられ、学業も両立できる高校として瑞陵高校を選択しました。ですが、3年間怪我に悩まされ、まともに練習することすらできず、体育館の裏で涙を流したことも今では懐かしく思います。そんな状況で毎日に物足りなさを感じていた頃、なんとなく眺めていた教室の掲示板で、夏休みを利用して全国の大学・研究機関で科学を学ぶサマーサイエンスキャンプというプログラムを知りました。当時興味を持っていた遺伝子組換えについて学べる、独立行政法人 生物資源研究所(生物研)を配属先に希望し、遺伝子組換えの光るカイコ、シルクが有名な研究室で学びました。これを機に将来は農学系へ進みたいと思うようになりました。高校卒業後は法政大学 生命科学部(現在の応用植物科学科)へ入学。一浪したこと、本来希望していた進路、分野ではなかったこともあり大学生活、専門分野に満足できず苦しんだ時期もありましたが、この4年間という時間に何百万円もの対価を支払って自分は何をするべきなのかと考えた時、この貴重な時間を無駄にするわけにはいかないと、今置かれた状況の中で精一杯楽しむことに決めました。一年次は技術士補の資格を取得し、二年次は企業の奨学生となり他大学の仲間と出会い、三年次には時間に多少余裕ができたため、東京大学で興味を持っていた講義を受けました。また、東京都の農業試験場で臨時職員を始めたのもこの頃です。四年次は大学で成績優秀者として表彰を受けることができました。現在は大学院への進学が決定していますが、不思議な縁により高校時代に訪れた遺伝子組換えカイコ研究ユニットへの配属が決定しています。そこでは遺伝子組換えカイコを用いた様々な研究がされていますが、カイコに有用なタンパク質(シルクの成分)を作らせ、医薬品や化粧品生産への応用を目的とした研究に携わる予定です。現在は植物病原菌類を専門にしているので畑違いの分野になり、不安もありますが自分を試す良い機会なので存分に楽しもうと思っています。



2012/01/09 成人式 瑞陵高校正門にて

法政大学 研究室にて

ここに至るまでに何度もくじけそうになりましたが、つらい時にいつも思い出するのが高校生の頃の思い出や友人たちのことでした。瑞陵の友人と話すとてもほっとし、元気になります。瑞陵が大好きなのは私だけではなく、卒業生はみなそうだと思います。在校生のみなさんは瑞陵高校で学べる特別な時間を大切に、いま目の前のやりたいこと、興味のあることを全力で楽しんでください。「一見無関係な出来事の点と点がつながり線となり、やがてその線が面となっていく」(Steve Jobs, 2005 -Stanford Report)日が来ると思います。それでは恩師のお言葉をお借りして締めくくらせて頂きます。「瑞陵高校にいつまでも自由の風が吹き続けますように。」最後になりましたが、このような機会をくださった先生方に厚く御礼申し上げます。